

第7回 日本ミニ・パブリックス研究フォーラム 開催記録

文責：坂井亮太（中央学院）

1、日時：2021年12月11日（土）13:30～16:40 オンライン（参加者30名）

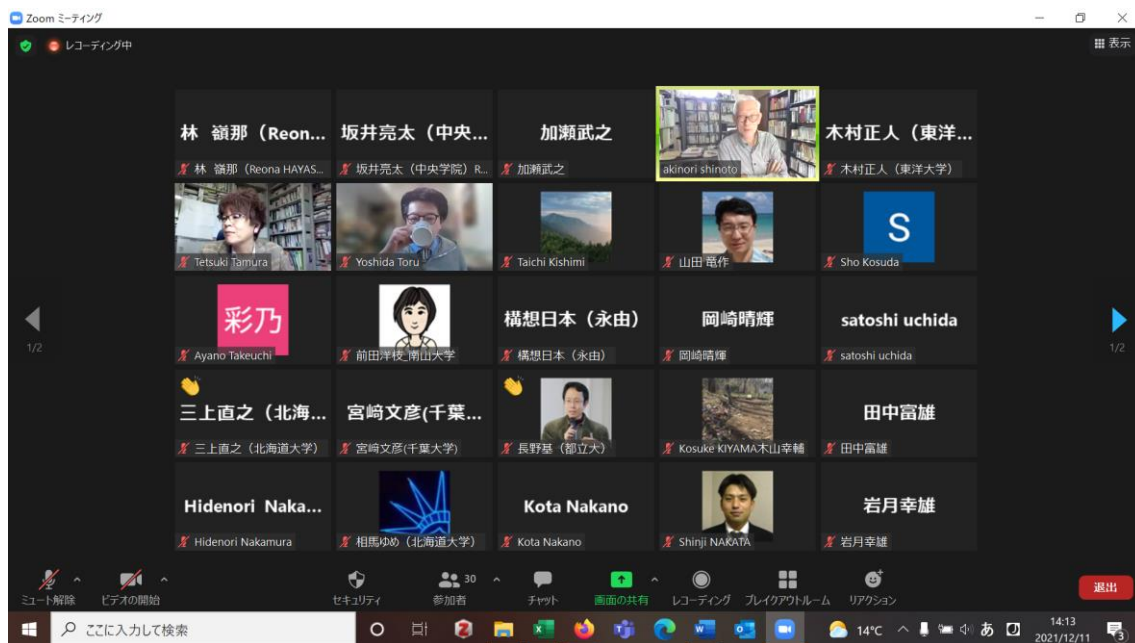
2、内容：

13:30～開会の挨拶 坂野達郎（東工大）

研究フォーラム誕生の経緯、DemocracyR&Dの活動、OECD報告書の翻訳の取り組み

13:35～参加者の自己紹介

市議会議員、元市役所職員、高校教員、大学研究者、大学院生、構想日本職員、
国家公務員など（初参加のメンバーが多く参加されました）



13:45～14:30 「くじ引き民主主義の可能性を考える——選挙代表制との対比から」
吉田徹(同志社大学) (25 分)

新著『くじ引き民主主義』をもとにした報告がなされました。代表制民主主義に向けられた不信を乗り越えるものとして、くじ引き民主主義（ミニ・パブリックス）が位置づけられました。くじ引き民主主義は、代表制民主主義の不全を乗り越える契機になるだけでなく、実践を通じて正統性が高まっていくパフォーマティブな側面があると報告がなされました。

Yoshida Toru の画面を表示しています オプションを表示

選挙民主主義（代表制民主主義）の構造的制約

時間的制約	空間的制約	主人－代理
・ 選挙サイクルの馴染む争点／政策の優先 e.g 財政問題、環境問題、経済的／社会的不平等	・ ナショナルな価値形成／配分を前提 e.g. グローバル化、官僚制	・ 選挙時における代理人の優位性 e.g 選挙時の情報の非対称性

(Guerrero 2014をもとに作成)

Yoshida Toru

ミュート解除 ビデオの開始 セキュリティ 参加者 30 チャット 画面の共有 レコーディング プレイアウトルーム リアクション 退出

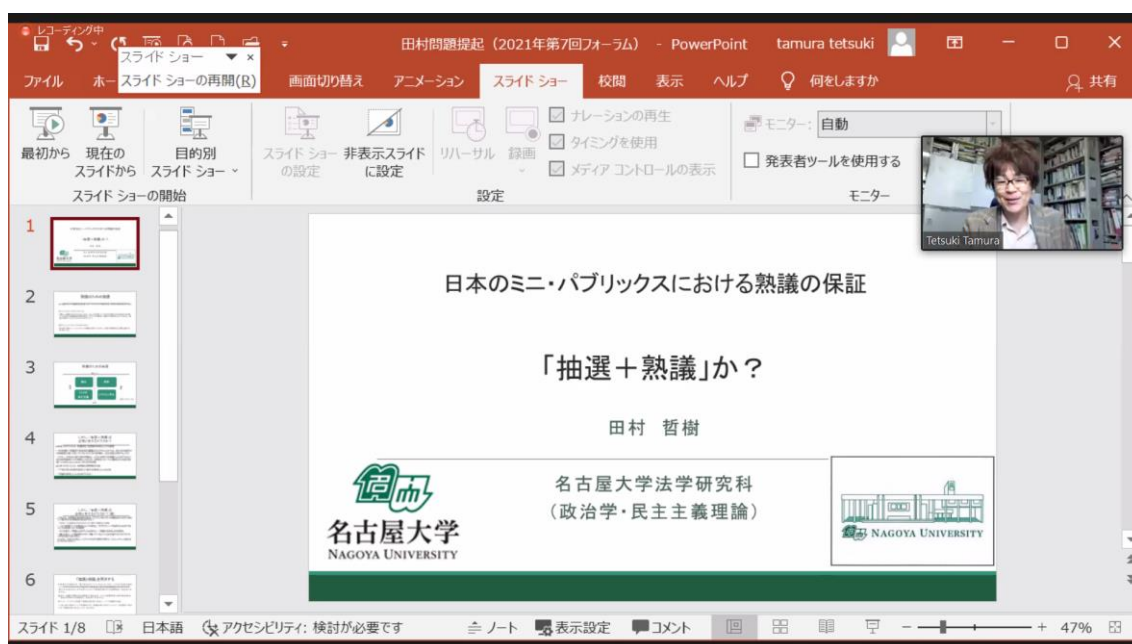
質疑応答(20 分)

- ・ ミニ・パブリックス型の政治参加は、フォーマルな政治的決定にどの程度導入可能か？
- ・ ロトクラシー懷疑の原因は？
- ・ 政治家は専門家か？

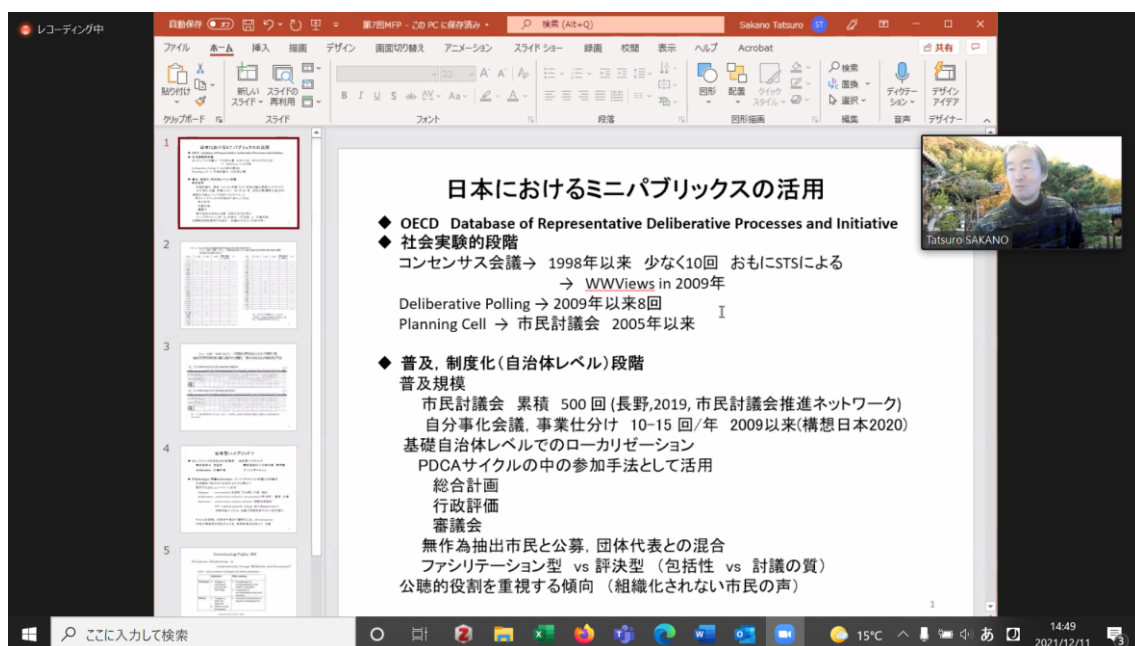
14:30～15:20 「日本のミニ・パブリックスにおける熟議の保証」

問題提起 田村哲樹(名古屋大学)、坂野達郎(東京工業大学)(15分ずつ)

田村哲樹 問題提起として、抽選と熟議は別物かも知れないという視点が提示されました。これまで、抽選と熟議を組み合わせることは、ミニ・パブリックス研究では自明視されてきたと指摘されました。しかし、熟議なき参加という方向性が出現していることが報告されました。また、ミニ・パブリックスの内部が熟議的かにとどまらず、熟議を社会に広げていく効果があるのかに注目する必要性が指摘されました。



坂野達郎 日本の基礎自治体のレベルで、ミニ・パブリックスのローカライズが進んでいることが報告されました。特に、（１）従来の政治プロセスに組み込まれる動き、（２）抽選市民以外にも自薦市民、利害関係者などを参加させるミックス型のミニ・パブリックスの広がり、（３）公聴を目的としてファシリテーションを重視した（評決型でない）ミニ・パブリックスの実施という流れが確認できると報告されました。対話 dialogue、熟議 deliberation、ファシリテーションという３タイプのなかで、日本ではファシリテーションや公聴の方向性が重視される傾向があると報告されました。



質疑応答、全体討論(20 分)

- ・ファシリテーションとデリバレーションの違いは？
- ・アジェンダ・セッティング後の市民参加は無意味か？
- ・自薦の公募市民の参加をどう理解すべきか？

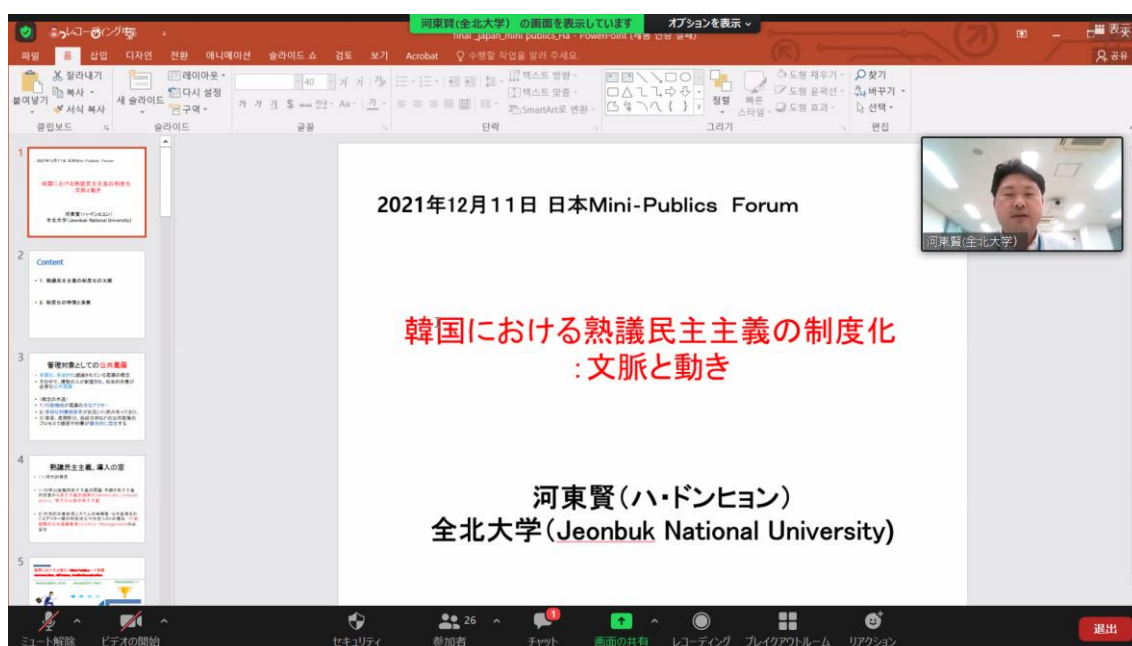
15:20～15:30 休憩

15:30～16:10 「韓国における葛藤管理 (Conflict management) と熟議民主主義の制度化」河東賢 (全北大学)

韓国におけるミニ・パブリックスの制度化の経緯、法的根拠、現状についての報告がなされました。韓国では、社会的合意が必要な対立を公共葛藤と呼び、行政が進めている事業について取り組まれるケースが多いこと。韓国の民主化以後の民主主義として、また、行政の葛藤管理の必要性から、実験的にミニ・パブリックスの導入が進められたことが報告されました。

また、韓国でのミニ・パブリックス (公論化) の浸透について、3段階で説明がなされました。第一段階では、中央政府の省令レベルで葛藤管理の導入が定められ社会に浸透していったこと (2000 年代-2016 年)。第二段階では、新ゴリ原発の建設再開をきっかけに、DP を中心としたミニ・パブリックスの浸透が進み、自治体で公論化条例が制定されたこと (2017 年-2021 年)。第三段階として、地方自治法の改正に際して、さらに浸透が進む見通しであることが報告されました。

加えて、(1) 行政における葛藤管理システムの導入、(2) 政策プロセスの中の公論化の活用、(3) 法律や条例の制定について、具体例を交えた報告がなされました。



The screenshot shows a Zoom meeting interface. The main window displays a presentation slide. The slide title is "2021年12月11日 日本Mini-Publics Forum". The main text on the slide is "韓国における熟議民主主義の制度化 : 文脈と動き" (Institutionalization of Deliberative Democracy in Korea: Context and Movement). The presenter is identified as 河東賢 (ハ・ドンヒョン) from 全北大学 (Jeonbuk National University). The slide content includes a table of contents and a list of topics.

項目	内容
1	韓国における熟議民主主義の制度化の経緯
2	Content
3	管理対象としての公共問題
4	熟議民主主義、導入の意
5	結論

The bottom of the screen shows the Zoom toolbar with icons for mute, video, chat, and other controls. A small video window in the top right corner shows the presenter, 河東賢 (全北大学).

報告 (20 分)、質疑応答 (20 分)

16:10～16:35 世界、日本における今年の活動等の報告 竹内彩乃(東邦大学)

日本ミニ・パブリックス研究フォーラムの概要、オンライン研究会、DemocracyR&D の動向について年次報告がなされました。



16:35～16:40 閉会の挨拶

17:00～18:00 オンライン懇親会

ブレイクアウトルーム機能を利用して、ランダムに割り当てられた参加者同士で意見交換が行われました。